

大阪産業創造館の月刊マガジン「Bplatz press」に  
「ハタチの会社見学」の見学先のひとつとして取材を受け、  
164号に掲載されました！



木村アルミ箔株式会社  
代表取締役 木村 裕一夫 (西宮市)  
<http://www.kimura-alumi.co.jp/>

最寄で詳細紹介されなかったロングインタビュー→ <http://bplatz.sansokan.jp/archives/3077>

## よそとちゃうことせなあかん！ 好奇心で発想力を磨く

**昭** 和5年、アルミ箔の製造からスタートした木村アルミ箔。「よそとちゃうことせなあかん」という家訓のもと、常に新しいものを取り入れてきた。創業から数年前には単純な鋳造加工から転換し、金型を使ったアルミ箔製の料理カップを生産するようになった。そんなある日、製造現場の職人が辞めてしまう。「これでは仕事が出来ない。そこで、現場のパートさんからお願いを請うことにしました。パートさんたちは作業の内容を一書員く知っている。彼女たちと共生することで、会社自身も成長してきたんです」と木村氏。意識を変える「気づきと職場環境」を与えられることで、人はどんな変化し成長する。その土壌は今も受け継がれ、若手に重要な仕事を任せたり、パートから正社員、役員へと登用される例も多い。

平成に入るとフィルム製の料理カップを開発。お弁当などをカラフルに演出する付加価値の高いカップの販出だ。この製品のヒットをきっかけに会社の認知度が上がり、より一層、安全で高品質、しっかりとした生産体制が求められるようになった。「それがISO9001、ISO22000の認証取得へとつながっていきました。どんな仕組みやルールをつくっても、社員たちがその質にならなければ浸透しない。マニュアルづくりから社員に任せることで、自発的に動く社内の空気が醸成されました。

現在、コンビニ弁当用フィルムケースの国内シェアは6割。その傍ら、海苔や昆布でできた「食べられる料理カップ」など、次々と「よそとちゃう製品」を形にしている。「真似されてもええんです。また次の手を考えれば、これからは社員たちと共に、新感覚的な「よそとちゃうこと」を作り続けていきたいと思います」。

木村社長は、第一印象からとても温かい雰囲気の方でした。社員を労働力としてみるのではなく、「一人の人間として成長させるための人材教育」と仰っていたことや、女性社員を大切にされていることが印象的でした。興味があることは何でも実践していくという社長の積極的な姿勢が、社員や社内の元気につながり、結果的に業績につながっている人ですね。

同志社大学  
経済学部 2年生  
白羽 莉さん

ま取  
材  
し  
た  
し



▼WEB限定 ロングインタビュー  
<http://bplatz.sansokan.jp/archives/3077>

「よそとちゃうこと」で次の一手 「社員が自分で考える風土」を！